



わたしたちの
SDGs

left works

大館市で住宅建材の補修や、エアコン設置工事などを手掛けるleft works。前職で培ったSDGsへの取組経験を生かし、リペアという分野に挑み、今年4月に一念発起して事業をスタートさせた代表の齋藤史典さんにお話を伺った。



代表 齋藤 史典

〒017-0861

大館市小館町12-21

TEL. 080-1699-4358

<https://leftworks-oodate.com/>



HP

前職の工場閉鎖を機に自ら事業を興して挑戦

住宅建材の補修、いわゆるリペアを主な事業として4月に設立した「left works」。代表の齋藤史典さんは、10年以上、乳飲料工場で勤務。在籍していた当時、業務改善活動の一環として、持続可能な社会の実現に取り組むという社内発表会に毎年参加していたという。

「自分たちができることは何か。その行動が何に繋がるか」といったSDGsへの意識付けが当たり前に行われていました。そのおかげで、自分たちの行動が環境を救うことにも、悪化させることにも繋がるという意識を自ずと持てるようになりました。」と齋藤さんは振り返る。

もともと手先が器用な齋藤さんは、副業としてリフォーム業を手伝っていた。しかし、工場が閉鎖することが通達され、齋藤さんは以前から構想を抱いていたリペア事業を自ら興すことを決意。副業をしている中で、大工さんにも器用さを買われ、リペアを勧められたこともきっかけのひとつだった。

費用を抑えて環境を守る「直して使う」選択

現在の主力事業は、賃貸住宅退去後の床や家具の補修、エアコンなどの設置工事だ。部材交換や建て替えに比べ、費用と施工時間を大幅に抑えられるリペアは、顧客の負担を軽減するだけでなく、廃棄物を削減する環境に優しい選択肢でもある。不動産会社からの依頼を中心に需要が増加しているほか、愛着のある物を長く使いたい個人からのニーズも高い。現在は大館市など県北地域を中心に一部県央地域にも対応するが、将来的には人員を増やし、より広い地域へサービスを届けていきたい考えだ。

「私だけやってみても変わらないという考え方ではなく、私だけでもやってみようという考え方の人を増やせたら、素晴らしい世の中になると思う。特別なことではなく、身近なリペアを通じて“直して使う文化”を広げていきたいです。」と語る齋藤さん。確かな技術と環境への熱い思いを胸に、「直して使う」意識をこれからも伝えていく。



フローリングの傷はパテで補修し、色を合わせて木目を描く。どこに傷があったのか全くわからないほどに仕上がる。



木材部分だけでなく、アルミも補修することが可能。全部交換せずにもるで新品のように蘇る。



前職のころに取得した資格を活かし、エアコンの取付作業も対応している。